

キリストが来られたなら(ルカ 3:1-17)

今日の聖書の時代の状況などを見ますと、サタンが最高に暴れている様子が伺える、そういう場面です。アンナスとカヤパがユダヤの大祭司であったころ、最高に悪事に走っていた大祭司たちであり、またあらゆる国主、王様がとりあげられているということも、その時代がそのように神に敵対して走っていた時代であったということを示しています。その時に、キリストが本格的にその働きを始めようとしていらっしゃいます。なので、私たちにどのような問題があっても、それが最高の危機や問題、また苦しみであっても、その時こそキリストの働きを期待すべきであります。そのキリストが本格的に働きを始められるために、それを備える役割としてバプテスマのヨハネが悔い改めのバプテスマを受けることになっていました。これを通してキリストがこの世に来られて本格的に働きを始められるということなので、その備えのバプテスマ、悔い改めということなので、そこから私たちはこのようなメッセージをしっかりと心に留めていきたいと思えます。

1. 人の問題が解決不可能な創世記 3 章であることが明らかに。

その第一は、キリストが本当に世に来られたなら、それは人間の問題が解決不可能な創世記 3 章の問題であることが明らかになったことです。

それを明確にして認めていかないとけません。

1) 創世記 3:15 の成就

つまり、キリストが世に来られたということは、創世記 3:15 の約束が成就されたということでしょう。

2) 創世記 3 章の事実

女の子孫が生まれて、蛇の頭を踏み砕くという約束が成就されたということは、裏返しますと、創世記 3 章のその罪のことが事実だったということではないでしょうか。つまり、人の問題は、私たちが思っているような問題ではなくて、創造主の神様を離れたことが本当の問題なんだと。神様を離れた途端に人間のたましいは死んでしまい、その結果、あなたがたは、あなたがたの父である悪魔から出たものであると言われる身分そのものが、存在そのものが、悪魔の子になってしまったということです。なので、生まれながら神の御怒りを受けるべき子らとして生まれる滅びの運命を抱えて生まれる者になってしまったのが私たち人間が抱えている問題なんだということが明らかにされました。なので、人々はそのどうにもならない根本の問題を抱えて、悪魔サタンの罠に引っかかって、宗教を求めて、また偶像拝んだり、シャーマンに頼ったり、何かのイデオロギーなどを追求したりしながら、その罠にはまって滅びの運命から絶対出られないように縛られているような状況になってしまいました。これが私たち人間が抱えている本当の問題なのです。誰も教えてくれないし、話をしても誰も認めようとしません。しかし、キリストがこの世に来られたことが間違いなければ、人の問題は創世記 3 章から始まりましたこの霊的な問題であり、根本の問題なんだということが明らかにされました。なぜ多くの人々が精神的に病んでいるのでしょうか。なぜ病を患っているのでしょうか。なぜ家庭内にトラブルが絶えないのでしょうか。また、人間関係にひびが入って、それがエスカレートをしていきますと戦争に発展していくようになります。なぜそういうことになってしまうのでしょうか。それに対してみなそれぞれ理由があります。もっともな理由を取り上げることができます。嘘でもありません。

3) 表の理由にとらわれず

しかし、それは表に現れている理由にすぎないもので、もしもそれが理由だと思っている限り、人々はその問題の解決のためにもがいて、頑張っ、必死になったり、あるいは諦めたり、それが心の傷になったり、また傷をつけたらというようなことの繰り返しにならざるをえません。私たちが問題だと思っていること、それは本当にその問題の理由なのでしょうか。キリストが来られたのであれば、それを改めないといけないのではないのでしょうか。そして、人の問題が本当に解決不可能な霊的な問題、創世記 3 章のその

問題だということが認められれば、表に現れている理由にとらわれることなどありません。また、とらわれてもいけません。

4) 女の子孫だけに

だからこそ、人の問題の解決、人の問題に対しての本当の答え、希望は、女の子孫だけにあります。つまり、蛇の頭を踏み砕いて勝利なさるキリストのほかには希望などありません。それが明らかになりました。キリストが世に来られたのにもかかわらず、残念なのは、教会に通っているにもかかわらず、人間の問題が何なのかその人に明らかにされていません。だから、未だに心の中に何かが残っていて、頭の中に何かが残っているわけです。クリアにキリストに向かうことができません。キリストは約束どおりにこの世に来られました。皆さんが、皆さんの問題、世の中の問題、誰かの問題をどのように思っているかが、それはすべて間違いなのです。人の本当の問題は神様を離れたところであり、悪魔サタンのしわざであり、自分ではどうにもならない罪と呪いの滅びの運命が人の問題です。そこからサタンが作り上げた罠にはまって、それがバックになって精神的に病んでしまったり、病を患ったり、家庭、人間関係のさまざまなトラブルに巻き込まれることになってしまうのです。本当の問題は目に見えないのです。だからこそ女の子孫、蛇の頭を踏み砕いて打ち勝って勝利なさるキリストだけに希望があり、キリストだけに目を向けなければいけません。キリストだけが希望になるわけです。これが本格的にキリストが働きを始めようとしているときに私たちに吟味してしっかりと整理して欲しいと望んでいらっしゃるメッセージなのです。

2. 悔い改めだけが生きる道であり、悔い改めは当然のこと。

そして、キリストが世に来て、イエス様がそのキリストに間違いなければ、これからバプテスマのヨハネがお迎えして仕えていくイエス様がその唯一の希望、キリストに間違いなければ、私たちにとって悔い改めることだけが生きる道であり、そして悔い改めることは当然なことになります。

そのほかに道はありません。希望もありません。気にしなくても結構なのです。イエス様がキリストに間違いなければ、悔い改めだけが生きる道であり、悔い改めは当然なことなのだとすることをぜひ心に留めておきましょう。

1) 4-6

今日の聖書の4節-6節をもう一度読みます。何が悔い改めなのかそこに示されています。「これは、預言者イザヤのことばの書に書いてあるとおりである。「荒野で叫ぶ者の声がある。『主の道を用意せよ。主の通られる道をまっすぐにせよ。すべての谷は埋められ、すべての山や丘は低くなる。曲がったところはまっすぐになり、険しい道は平らになる。こうして、すべての者が神の救いを見る』」。このためにバプテスマのヨハネが悔い改めのバプテスマを授けるために立ち上がりました。もちろん、このときのバプテスマ、水のバプテスマというのは、いま私たちが受洗するときのそれとは意味が違います。悔い改めのバプテスマです。

2) 解決不可能な問題を認めて

何が悔い改めなのかと言いますと、今ここで言われているこのような表現の意味は何かと言いますと、先ほど申し上げました人間の問題が解決不可能な問題であること。今までそれに全く気づいていなかった。けれども、神様の恵みによって自分の問題が神様を離れた霊的な問題であり、悪魔のしわざに引っかかったどうにもならない問題。誰かのせい、何かのせいと言えないそのような解決不可能な問題であることを認めることを悔い改めるといいます。

3) 今までの道(希望)を捨ててUターンする

今までの道、今まで自分が進んできたその道には希望を持ってそこに向かって進んでいったでしょうが、解決不可能な問題であることを認めるようになれば、その今まで自分が歩いてきた道、自分が託していた希望などを全部捨てて、そこからUターンすることを悔い改めると言います。何かの間違いがあつて「ごめんください。間違っていました」と反省することではありません。その反省というのは、人の本当の問題

を知らないまま反省することでしょう。人の本当の問題を心から素直に認めること、その認めた結果、ならば今まで私が希望と託していたことは何だろうか。今まで私が幸せになるために、あるいは問題の解決のために頑張ってきたその道はいったいなんだったのかと問いかけることなのです。今までの希望、その希望に向かってもがいて努力して頑張ってきたそのすべてを全部間違いだと認めて捨てて、そこからUターンすることなのです。今までは人は努力すれば人生は変わると思って努力してきました。それを捨ててUターンすることなのです。宗教の中に入って、心の安らぎを得られるだろうと思って宗教を求めていました。それを全部捨てて、そこからUターンすることなのです。偶像を拝み、パワースポットを回れば、自分の願いが叶えられると思ってお辞儀をしていた、それを全部捨てて、そこからUターンすることを悔い改めと言います。なぜなのでしょう。本当の問題が何か分かった以上、それは希望でも道でも答えでも何でもありません。哲学や何かの知識や思想やイデオロギーなどを広めていけば世の中は良い社会に変わるだろうと思って犠牲を払ってがんばっていた、それを全部捨ててUターンすることなのです。道徳と倫理、常識などを無視してはいけません。しかし、道徳と倫理のルールをしっかり守ることで、私は良い人間になれる、善人として生きることができると思って道徳、倫理に取り組んでいた、それを全部捨ててUターンすることなのです。いま短く申し上げましたけれども、話が本当に理解できたでしょうか。それが悔い改めなのです。その言葉を裏返しますと、今まで自分がうまくいかなかったことに対して、誰かのせい、何かのせい、環境のせい等々、何かのせいにしていたことを全部捨ててUターンすることなのです。人を始め、何かに頼っていたそのすべての頼りを全部捨てて、そこからUターンすることを悔い改めると言います。そのためにバプテスマのヨハネが立ち上がり、水のバプテスマを授けながら、これでキリストであるイエス様にそなえるんだと説いていたわけです。これほどキリストが世に來られた、そこに込められているメッセージはすごいものになります。今まで誰もどこに行っても教えられない、教えることができない人の本当の問題が明らかにされることなのです。キリストが來られた。女の子孫が來れると約束された、それが本当に成就したのであれば、創世記3章のその問題が本当の問題だったのだね。噂話や伝説ではなくて。これがキリストが來られたという裏返しなのです。だからこそ悔い改めることは当たり前で当然で、それ以外、道はありません。それ以外に求められることはありません。今までのすべてを捨ててUターンしてイエス様の方に向かうことを悔い改めと言います。イエス様の方に向かうことを信仰と言います。このようにヨハネはバプテスマを授けていました。今日の聖書を見ますと、そこにバプテスマを受けようとして来ている群衆に向かってもものすごいひどいことを言います。まむしのすえたち。これはユダヤ人の悪口の中で最悪の呪いの言葉なのです。そのように呪いの言葉をかけながら、誰が御怒りを逃れようとするのかと。いまバプテスマを授けながら、みな悔い改めなさいと言いながら、そのために来ている人々に対してなぜこういうことを言うのでしょうか。

4) 真の悔い改めのない宗教的満足警戒

マタイ3:7を見ますと、その時に來た人々のことをパリサイ人とサドカイ人と示しています。つまり、彼らは大勢の群衆が集まり、すごい宗教的なイベントというように見えたわけです。だからそこに行ってみようかという宗教的な満足を得ようとして、あるいはそのイベントに参加しようという思いでたぶん來たのではないのでしょうか。それを見抜いていたバプテスマのヨハネが、本当の悔い改めのない宗教的な満足を求めることなど、とんでもないことなんだよ。けしからんと言っているわけです。教会に通っていても真の悔い改めがないまま教会に通って行きますと、宗教から逃れられません。宗教的な慣習、最終的には宗教的なプレッシャーや宗教的な勘違いなどに翻弄されることになります。バプテスマのヨハネはたぶんキャラクター的にもものすごく実直な人間だったと思うのです。それで後でヘロデ王の何かを指摘することで刑務所に入れられることにもなりますが、それがよかったのか悪かったのかということも議論しないといけません。しかし、だからこのヨハネはまっすぐに彼らのことを指摘していました。それでそう言いながら、あなたがたは心の中で「自分たちはアブラハムが私たちの父なんだ。アブラハムの子孫なんだ」と思っているだろう。そう思ってる以上、悔い改めとは縁がありません。悔い改めていないわけです。自分たちはアブラハムが先祖であり、その子孫なので恵まれた者であり、選ばれた者でありという意識を持っている限りは悔い改めることとは遠く離れている状態なのです。それを見抜いてバプテスマのヨハネがまむしのすえたちと言っているわけです。つまり、本当の悔い改めがないまま、宗教的な満足を求めていることはけしからんと言っているわけです。私たちもそれを気をつけなければなりません。

5) 間違っていた人生を認める

その後も取税人たちやローマの兵士たちなどが次々と来て、「ならば私たちはどうすればいいのでしょうか」と。それに対していろいろなことを言いました。彼らが今までやっていたこと、それを修正しなさいという意味でいろいろ言うわけです。悔い改めなさいと。うっかり私たちは「そうか。二枚持っている者は、何も持っていない者に服を一枚あげれば、それが悔い改めなのか」と行いを改めることを悔い改めだと勘違いしがちなのですが、いまヨハネが言っているのはそういう意味ではありません。今まであなたがたがそういうことをやってきたというのは、あなたがたの人生そのものが間違っているのだよ。あなたがたの人生そのものが間違いだということを素直に認めなさいよと訴えていることなのです。悔い改めなさいと。今まであなたがたが頑張っていて向かってきたそこに人生の答えはないし、救いもないので、全部捨ててキリストの方に向かいなさい。そういう意味でヨハネは「どうすればいいのでしょうか」と尋ねてきた人々にそのような返事をしていたわけです。

改めてイエス様がキリストに間違いなければ、何がどうであれ、どこの時代の、どのような状況の人間であれ、社会的にどういう身分、階級がどうであろうが、解決不可能な人間の問題、霊的な問題、根本的な問題、それを素直に認めて、それを知らないまま良かれと思って幸せを求めて、問題の解決を願いつつ動いてもがいてがんばっていただろうけれども、そのすべてを捨ててUターンして、唯一の希望であるキリストであるイエス様の方に向かいなさいと。当然でしょう。多くの人がイエス様を信じなさいと勧められたときに、「いや、もう少し後で。いま私はこんなこんな悪いことをたくさん抱えているから。すぐやめるわけにもいかないし。すべてやめてから」という人がいますが、それはキリストの福音のメッセージが正しく届いていないからです。正しく届いていれば、そのように躊躇したり、自分の悪さ良さなどにこだわる余裕も理由もありません。滅びるしかないのです。自分では自分の悪さを止める力も能力も資格も何もないということに気づかないといけません。だからキリストが来られたのです。キリストが来られなければいけない、そういう問題を私たちを抱えています。キリストを通してそのメッセージを聞いて、それに反応しないとダメです。バプテスマのヨハネを通して悔い改めの水のバプテスマを受けていたというのは、そのような意味がそこにはあったのです。

なので、今日のこのメッセージを通して、「私たちは礼拝を捧げているクリスチャンなのです。」改めて自分自身を振り返って、キリストだけを希望にして、すべてをちりあくと告白しましょう。それがなかなか難しいのでしょうか。そこに本当の意味で自由があり、私たちも知らないうちに私たちを捕らえて遊ぼうとしている暗闇の力が砕かれていくことになります。それで皆さんの内側にまず変化が現れるようにならなければいけません。必ず現れます。なぜそのように告白しないとダメなのでしょう。キリストだけが悪魔のしわざを打ち壊した唯一の王様なのです。キリストだけが私たちの罪の身代わりとなって、自分を犠牲のいけにえとして献げることで永遠に私たちの罪を全うされた唯一の祭司なのです。イエス・キリストだけがわたしは道であり、真理であり、いのちですとおっしゃって、神様と出会って永遠のいのちの祝福にあずかる真の預言者なのです。キリストのほかにはそれが可能な人、何かは宇宙に存在しません。だからキリストだけを希望にして、すべてをちりあくと告白する、その告白のクリスチャンになりましょう。それでイエス様をキリストとして心に信じて受け入れましょう。受け入れたのであれば改めて確認しましょう。自分が信じて自分の内側にいらっしゃるイエス様がこのキリストなんだということを改めて確認しましょう。そして、ならば私はそのキリストを信じてキリストにあって自分は神の神殿となっているのだ。聖霊が宿る神の神殿となっているのだ。受け入れた人々、すなわち、その名を信じた者には、神の子どもになる特権をお与えになる。私は神様の子どもなのだ。誰でもキリストのうちにあるものは古いものは過ぎ去り、すべてが新しくなった。私は全く新しく作り変えられた新しい存在なのだということを確認して感謝しましょう。皆さんの人生は、キリストの十字架にあってもう終わり、新しく生まれることになりました。過去にこだわったり、引きずったりする理由もないし、何かしら問題に囚われてアップアップする理由もありません。どういう問題があろうが終わったことなのです。なぜでしょうか。イエスがキリストなのだから。そのキリストであるイエス様が私の内側にいて、自分が自分が思っている自分ではなくて、神の神殿、神の住宅なのです。神の子ども、神様を「アバ、父」と呼ぶ関係。キリストと一つになって一体となった新しい存在です。そのことを信仰によって感謝して、ならば、そのキリストにあって人生を新しく始めましょう。新しい人生の生き方を正しく切っていきたいと思えます。それ

が何かと言いますと、ヨハネが言いました。多くの人がこのヨハネこそキリストではないのかと勘違いしていた時に、とんでもないよ。これから私はあなたがたにいまバプテスマを授けているけれども、私の後においてになる本当のキリストは、私はその方の靴の紐を解く値打ちもないものなのです。私は今、悔い改めのために、備えるために水でバプテスマを授けているけれども、本当のバプテスマはそれではなくて、来られるキリストによってそのキリストが聖霊のバプテスマ、火のバプテスマを授けるようになるよと。それは天と地の違いです。神様が私たちに備えていらっしゃるバプテスマは水のバプテスマではなくて、よみがえられたイエス様が御座に座って聖霊のバプテスマを授けるために十字架で死なれてよみがえられるようになるわけです。そのことをおっしゃいました。ならば、そのキリストを心に受け入れて新しく生まれた者であれば、過去がどうであれ、どんな状況であれ、どのような弱さと問題を抱えていようが、それは構いません。あなたがたは知らなくてもいいのです。キリストの御名によって聖霊のバプテスマが与えられることを祈ることがクリスチャンのスタートなのです。クリスチャンの祝福であり力であり、クリスチャンの生き方なのです。その聖霊のバプテスマによって、その人、自分自身がまず変わります。そうすると、その人が努力しなくても周りが変わります。時間空間を超越する力が現れます。だから悔い改めることでキリストをお迎えしないとイケません。なぜなのでしょう。聖霊のバプテスマ、火のバプテスマが備えられているからです。そこが一番のポイントなのです。何が聖霊のバプテスマなのでしょう。聖霊が宿る神の神殿であるから、それは当たり前なことなのです。これからは地上のもので満たされるわけでもなく、地上のものによって振り回される理由もなく、天にある御座の祝福と三位一体の神の力がその人に臨まれまして、その人のすべてを新しく変えることになります。必ず信じてください。諦めることなく。これは頑張るという意味ではありません。約束されている祝福、賜物なので、それを祈ることがクリスチャンなのです。イエス様は聖霊のバプテスマを授けるキリストですから。そこを抜きにして信仰生活を、また正しい人間になろうと、問題を解決しようとする、また昔に戻ることで、宗教になってしまいます。何が正しいか正しくないか、どっちがどっちなのか、いつまで経ってもそこから抜け出せないのです。私たちは何がどうであれ、聖霊のバプテスマ、火のバプテスマが約束されている者なので、そちらの方に一直線で向かうようになります。知らなくてもいいよ。国が植民地なのかどうかも知らなくてもいいよと言われるくらいだから。皆さんが気にしている問題、こだわっていることは何でしょうか。知らなくてもいいよ。あなたがクリスチャンであれば。あなたのスタートは聖霊のバプテスマ、それにフォーカス合わせ、それに満たされることを第一に優先順位にしてください。なかなか治らない何かがあるのでしょうか。習慣があるのでしょうか。直らない性格があるのでしょうか。気にしないで、イエスはキリスト。私は新しく生まれたんだ。聖霊のバプテスマ、御座の祝福が注がれるものなんだ。信じてそれを求めてください。結果、どうなるのか。それを証拠と言います。私たちは証人になります。これがクリスチャンです。これを抜きにするから教会が道德の団体、倫理のサークル、宗教の集まりのようになってしまうのです。本当の悔い改めはなんなのか。それしか道はありません。キリストに向かいましょう。あれもこれも全部振り払ってキリストだけに集中しましょう。そのキリストを受けたのであれば聖霊のバプテスマに集中しましょう。それが使徒1:14のマルコのタラッパンでの祈りに専念していたその祈りなのです。どのような形で集中するかは人それぞれでしょうけれども、変な神秘主義でも何でもありません。事実なので信仰をもって落ち着いて自分自身をCalm downしてください。この祝福を置いておいたまま、次の何かに行くということはスタートから間違いです。そこでいくらこれがこうで、あれがああですと言われていても、全部がその通りだとしても、それはクリスチャンとして相応しいものではありません。だからキリスト教と宗教と倫理の団体と区別がつかないのです。

皆さんはどのような弱さを抱えているのでしょうか。皆さんが朝起きて夜寝るまで一日中、だからダメなんだ。俺はこうなんだ。親がこうなんだ。環境が...だから、だから、だからといくらそうであっても構いません。考え方を教えてください。もちろん信仰、みことばによって変わるものでしょうけれども、神の恵みによって皆さんの考え方が変わることを願います。大丈夫、構わない、くらいではありません。逆に感謝しましょう。だからこそ、皆さんは他に余計にいろいろなことにこだわる理由がないのではないのでしょうか。良い物がいっぱいあれば「まむしのすえたち」になるように、「アブラハムが私のお父さんなのに」とかこだわるのがいっぱいあるので、良いものがなくて良かったのではないのでしょうか。感謝してください。聖霊のバプテスマ、Only 聖霊が臨まれると、御座の祝福、三位一体の神様が皆さんの内側で働かれるように。誰が周りがどうのこうの以前に、それを生かすために皆さんが力を得ないといけませ

ん。約束されました。キリストが約束通りに世に来られたように、皆さんが力を得て証人となるという約束も必ずその通りになりますので。それで皆さんの内側に変化が起きて見る目が変わって、皆さんの周りが動きだした時には教会に連絡してください。ここでいのちの運動が行われるように。祈ります。システムを作りましょうと。必ずそうなりますので。それを期待しながら、見渡しながら、祈っていきたいなと思います。主にすべての栄光を捧げます。弱くても険しくても構いません。いや、むしろ感謝です。そういうふうに参加しましょう。それが悔い改めなのです。

(祈り)

恵み深い父なる神様。ありがとうございます。キリストが来られる道を備える悔い改めについて教えられました。どうか道徳的に倫理的に勘違いしてる部分を直して、人間の解決不可能な問題を素直に認めるところからキリストだけに向かい、そのキリストにある聖霊のバプテスマ、火のバプテスマの方にフォーカス合わせて向かい、自分の内側から変わり、周りや世界が変わる道しるべをたどっていく夢を見ながら祈ることができるようにひとりひとりを祝福してください。今現在どんなに弱い立場の人間であっても、その夢の契約があることを信じて祈ることができるようにひとりひとりを祝福してください。イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン。